

冬春野菜等の需要に応じた生産の推進について (令和5年度冬春野菜等の需給ガイドライン)

令和5年6月

農林水産省農産局園芸作物課

野菜価格安定制度における計画生産・計画出荷の仕組み

- 需要に即した計画的な生産・出荷を推進するため、国は指定野菜について概ね5年ごとに需要及び供給の見通しを策定するとともに、年2回(冬春・夏秋)需給ガイドラインを策定。この需給ガイドラインを目安として、出荷団体等は、供給計画を作成し、計画に即した野菜の出荷に努める仕組み。
- 供給計画に即した出荷がなされるよう、指定野菜価格安定対策事業においては、供給計画と出荷実績との乖離度に応じて生産者補給交付金を減額する措置のほか、前年度の価格低落時における需給調整の取組実績等に応じて補填率に差を設ける措置を導入。

需要及び供給の見通し(国)

(概ね5年ごとに策定)

指定野菜の種別ごとに、概ね5年後の需要量、供給量、国内産供給量の見通しを策定

需給ガイドライン(国)

(毎年、6月:冬春野菜、12月:夏秋野菜に策定)

直近の需給動向等を踏まえ、種別ごとに次期作の需要量、供給量、国内産供給量の見通し、作付面積の指標を策定

供給計画(出荷団体等)

需給ガイドラインを目安とし、種別ごとに年2回策定(播種・定植前の当初計画、出荷前の確定計画)

野菜価格安定対策事業における措置

① 供給計画の作成を加入要件とする(契約野菜収入確保モデル事業を除く)

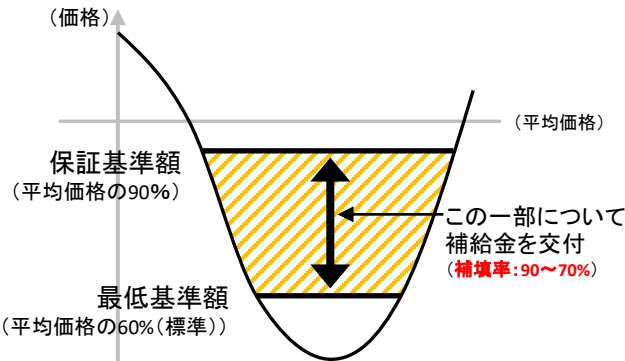
② 供給計画と出荷実績との乖離度に応じて交付金を減額

＜供給計画と出荷実績の乖離度合い＞

～	△60%	△50%	△40%	△30%	△20%	0	+20%	+30%	+40%	+50%	+60%	～
減額率 60%	減額率 50%	減額率 40%	減額率 30%	減額率 20%	減額なし		減額率 20%	減額率 30%	減額率 40%	減額率 50%	減額率 60%	

※ ±20%から±60%まで±10%間隔で乖離度合いを区分し、減額率は0～60%。

③ 過去3年の供給計画と出荷実績の乖離度や、緊急需給調整事業の取組実績等に応じて、生産者補給交付金の補填率を設定



補填率90%(産地区分Ⅰ)となる場合

以下の①・②の両方を満たす出荷団体

- ① 次のa又はbに該当すること
a. 産地強化計画(加工・業務用推進タイプ)を策定
b. 産地強化計画を策定し、直近3か年の計画的出荷割合が基準を満たす※
- ② 前年度において、対象品目の価格が緊急需給調整事業の発動価格以下となった際、対象品目の出荷があり、かつ、緊急需給調整事業を実施したこと

※ 直近3年の各年の計画的出荷割合 < 120/100、かつ、計画的出荷割合の直近3年平均 < 110/100

令和5年度冬春野菜等の需給ガイドライン(概要)

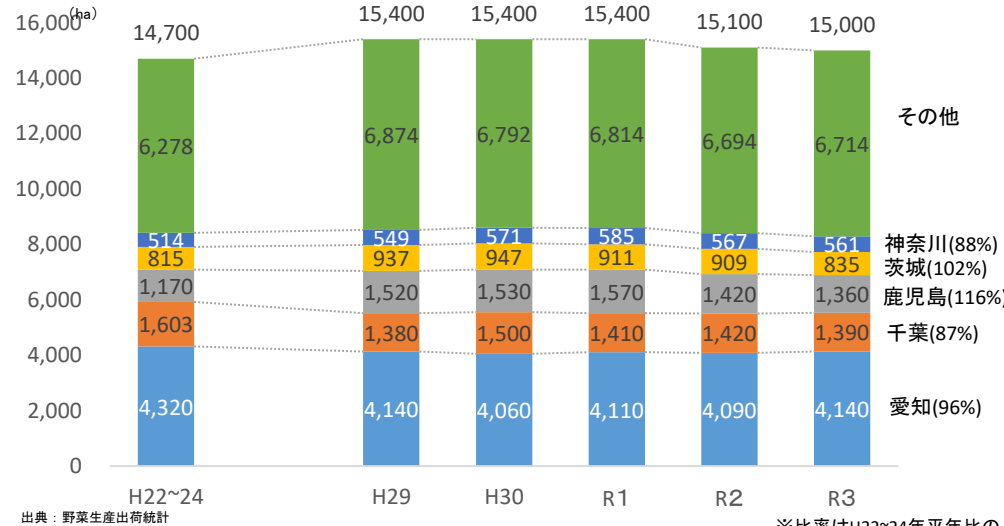
- 需給動向や人口、単収等のすう勢を基に、有識者の意見も踏まえつつ、指定野菜に係る「需給ガイドライン」を策定。
- 令和5年度冬春野菜等の需給ガイドラインでは、新型コロナウイルス感染症の制限緩和等による需要の回復を鑑み、多くの品目で直近作付面積と近い作付面積指標を提示。
- ただし、依然として一部品目においては、**価格の低落が顕著であり、引き続き需要に応じた出荷に取り組むことが重要。**

種別等	需要量(t)	供給量(t)	国内産供給量(t)	作付面積(ha)	前年度実績比	前年度ガイドライン比
冬キャベツ	424,500	601,700	595,900	15,000	100.0%	99.3%
春キャベツ	257,400	364,900	359,000	8,700	99.8%	98.9%
冬春きゅうり	268,500	294,600	280,100	2,550	98.8%	95.1%
秋冬だいこん	692,600	818,700	809,400	19,400	99.5%	98.0%
春だいこん	166,300	196,500	190,800	4,050	100.0%	95.7%
たまねぎ	1,308,500	1,529,800	1,164,000	23,200	93.2%	98.31%
	うち北海道産	771,500	902,000	12,800	86.5%	100.0%
	うち都府県産	537,000	627,800	10,400	100.0%	96.3%
冬春トマト	323,100	391,600	383,100	3,790	100.0%	98.4%
	うち大玉トマト	238,100	285,400	2,620	100.0%	97.8%
	うちミニトマト	85,000	101,900	1,170	100.0%	105.4%
冬春なす	99,800	115,500	113,900	1,030	100.0%	99.0%
冬にんじん	293,500	321,900	233,100	7,500	99.1%	99.5%
春夏にんじん	232,000	254,500	155,600	3,980	100.0%	95.7%
春ねぎ	59,800	87,300	76,800	3,310	100.0%	99.4%
夏ねぎ	68,200	99,600	88,300	4,790	100.0%	98.2%
秋冬はくさい	457,900	573,100	572,400	12,000	97.6%	97.6%
春はくさい	93,600	117,100	116,500	1,800	97.3%	100.0%
ばれいしょ	1,748,300	2,165,600	1,107,300	70,900	100.0%	94.8%
冬春ピーマン	76,800	95,100	77,300	730	101.4%	102.8%
ほうれんそう	226,600	273,700	209,300	19,300	100.0%	97.5%
冬レタス	148,500	182,600	176,400	7,370	100.0%	97.0%
春レタス	88,400	108,700	108,400	3,860	100.0%	94.6%

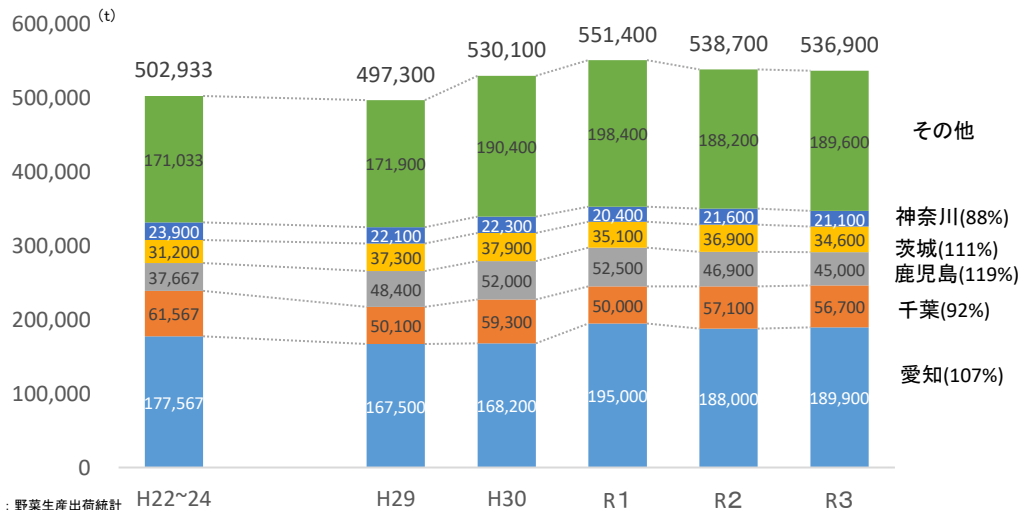
冬キャベツの生産・価格等動向①

- 愛知、千葉で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は微増で、全体出荷量は増加。主産県では、千葉の作付面積・出荷量が大きく減少した一方で、愛知、鹿児島、茨城の出荷量は大きく増加。
- 国内生産量に比べると極少量ではあるが、加工・業務用に主に中国から毎年一定量が輸入されている。国産の不作時に代替として輸入量が増える傾向。

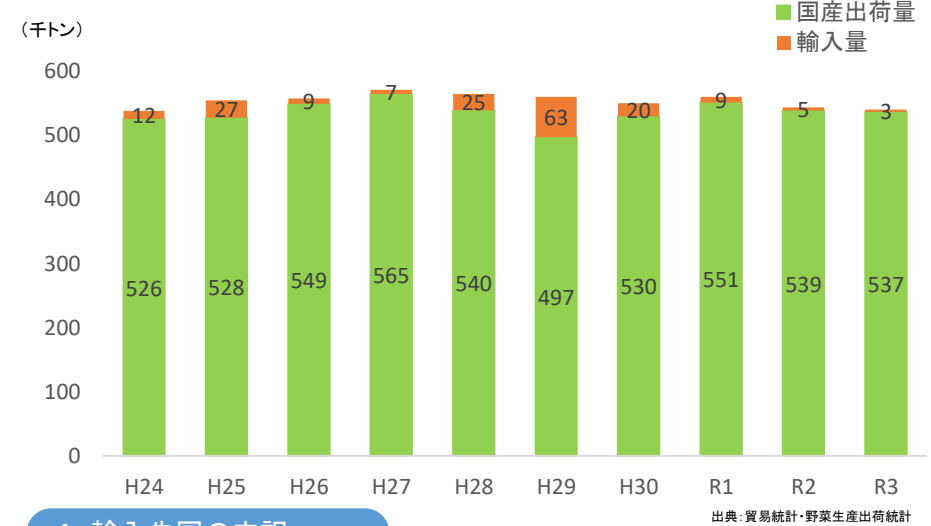
1. 作付面積の推移



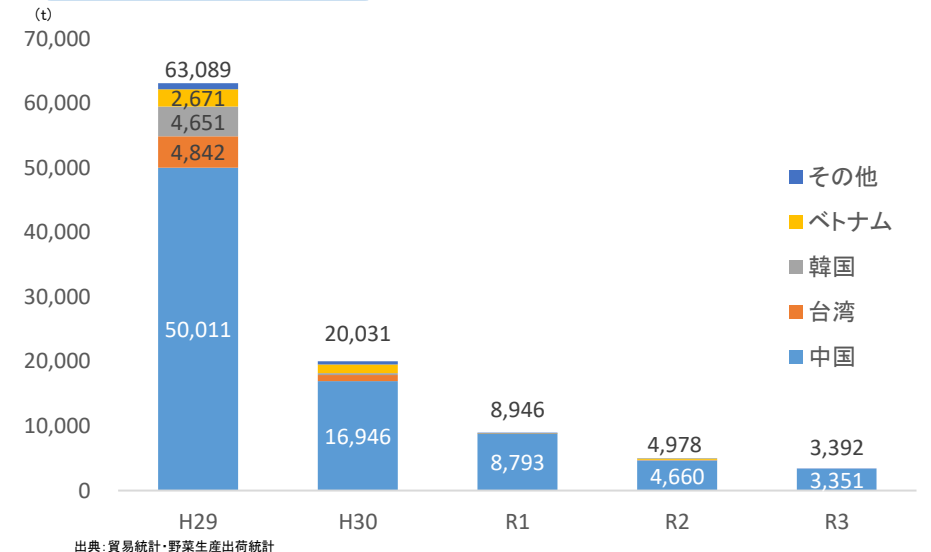
2. 出荷量の推移



3. 出荷量と輸入量



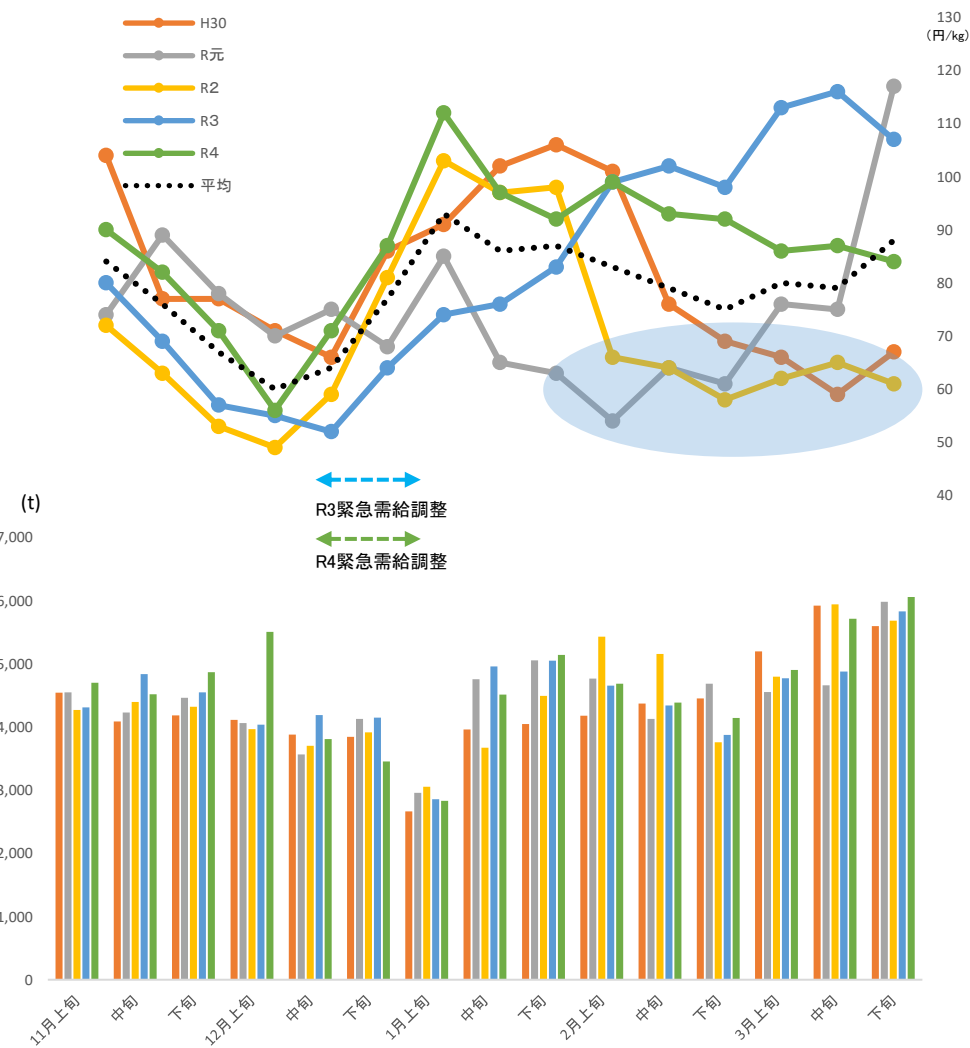
4. 輸入先国の内訳



冬キャベツの生産・価格等動向②

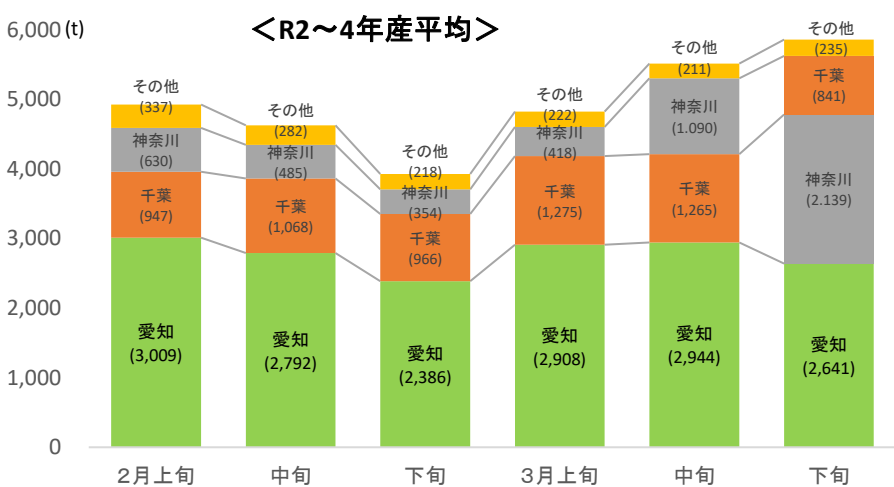
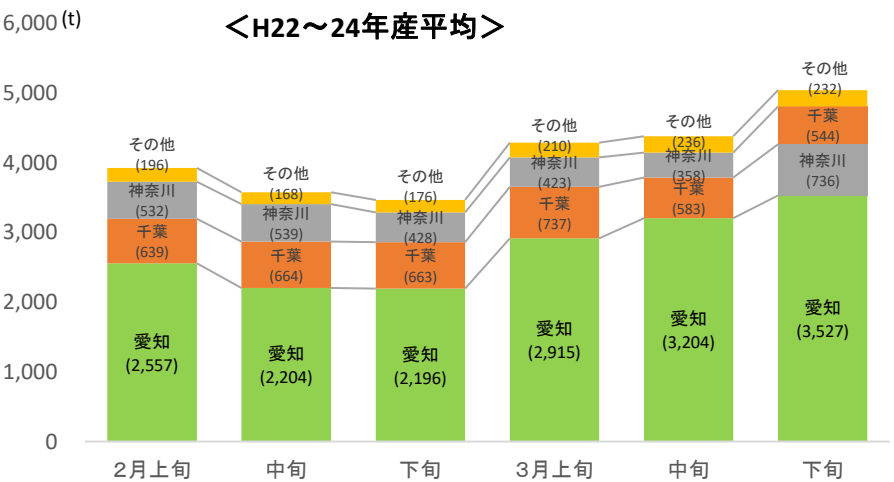
- 近年は暖冬等の影響によって出荷期間を通じて大幅安値となる傾向。
- 年により差があるものの、2月上旬から3月下旬に出荷量が増加し、価格が低迷する傾向がみられる。令和2年～3年の2年連続で緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(2月上旬～3月下旬)

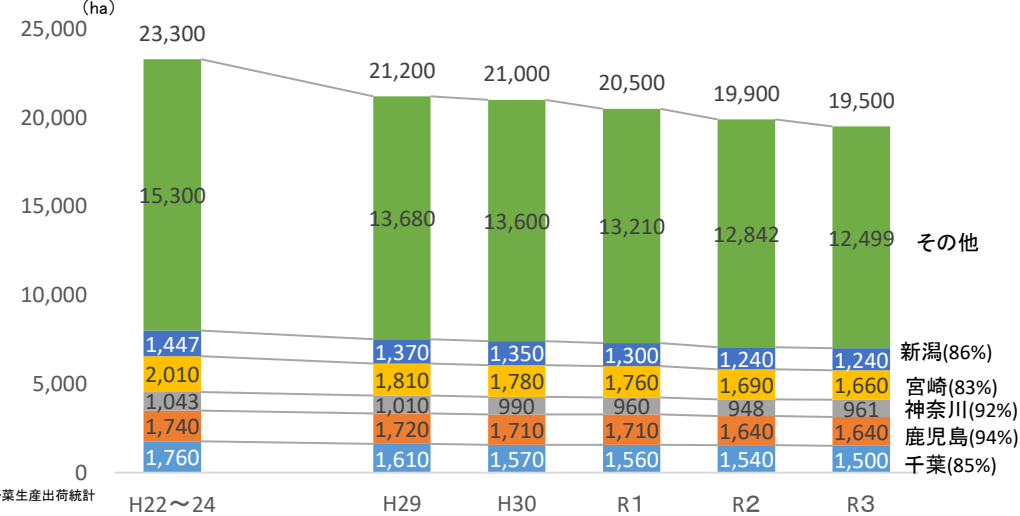


	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	24,666	29,663	120%
愛知	16,604	16,680	100%
千葉	3,829	6,363	166%
神奈川	3,014	5,116	170%

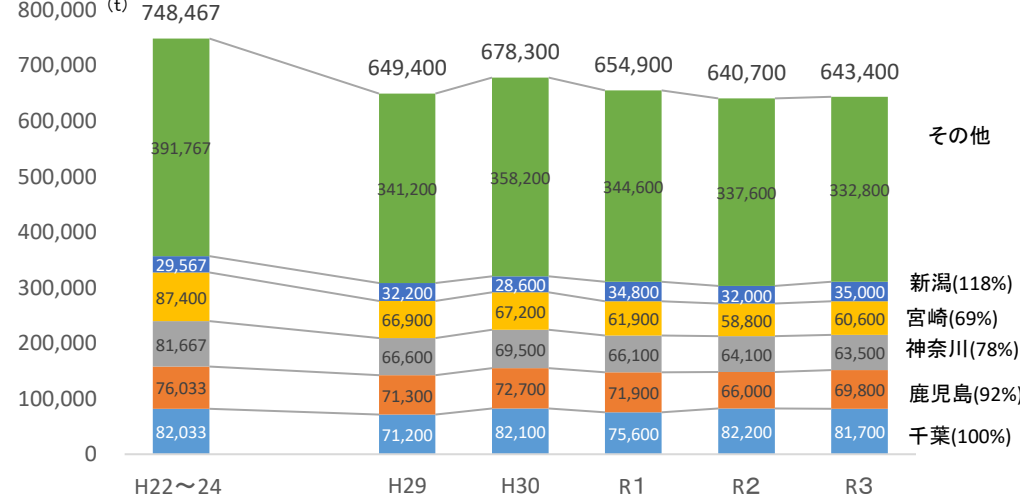
秋冬だいこんの生産・価格等動向①

- 千葉、鹿児島、神奈川、宮崎、新潟で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積、全体出荷量ともに大きく減少。主産県では、新潟の出荷量が大きく増加しているが、その他主産県は作付面積・出荷量ともに大きく減少の傾向。
- だいこん(生鮮)の輸入量は極少量であり、国内供給のほぼ100%が国産品。乾燥だいこんが中国等から一定量輸入されている。

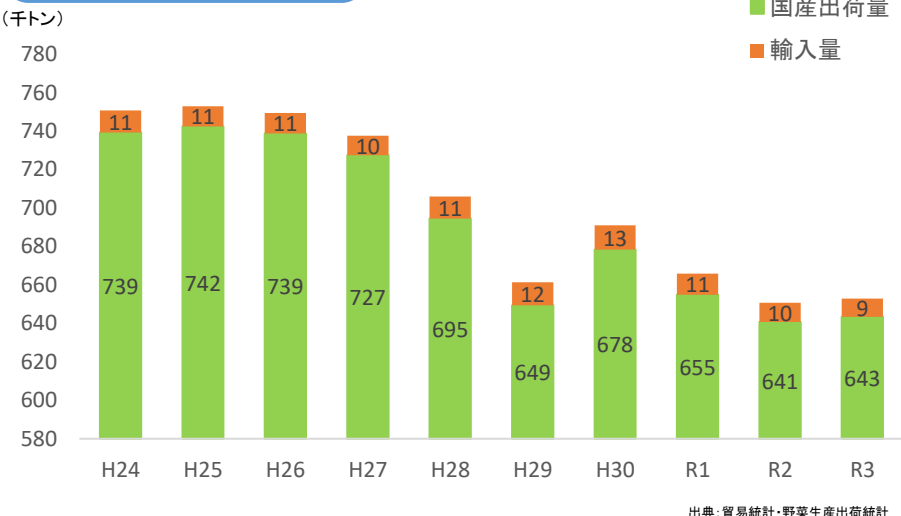
1. 作付面積の推移



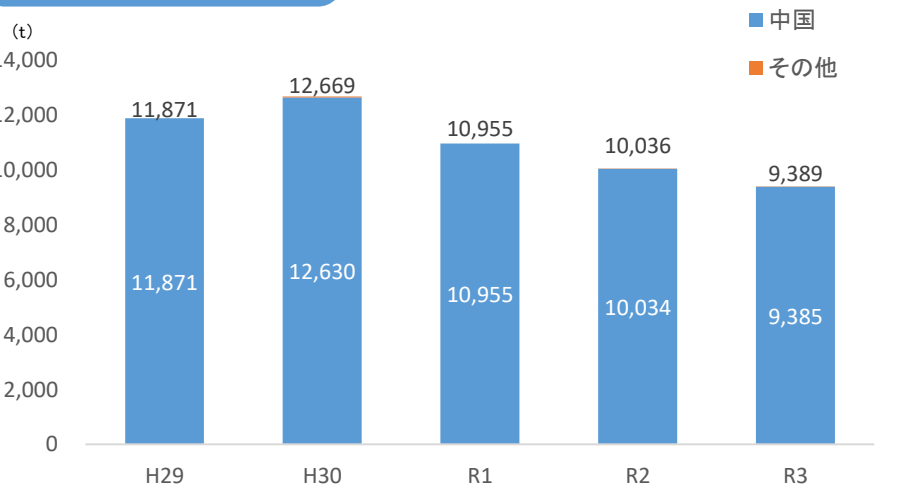
2. 出荷量の推移



3. 出荷量と輸入量



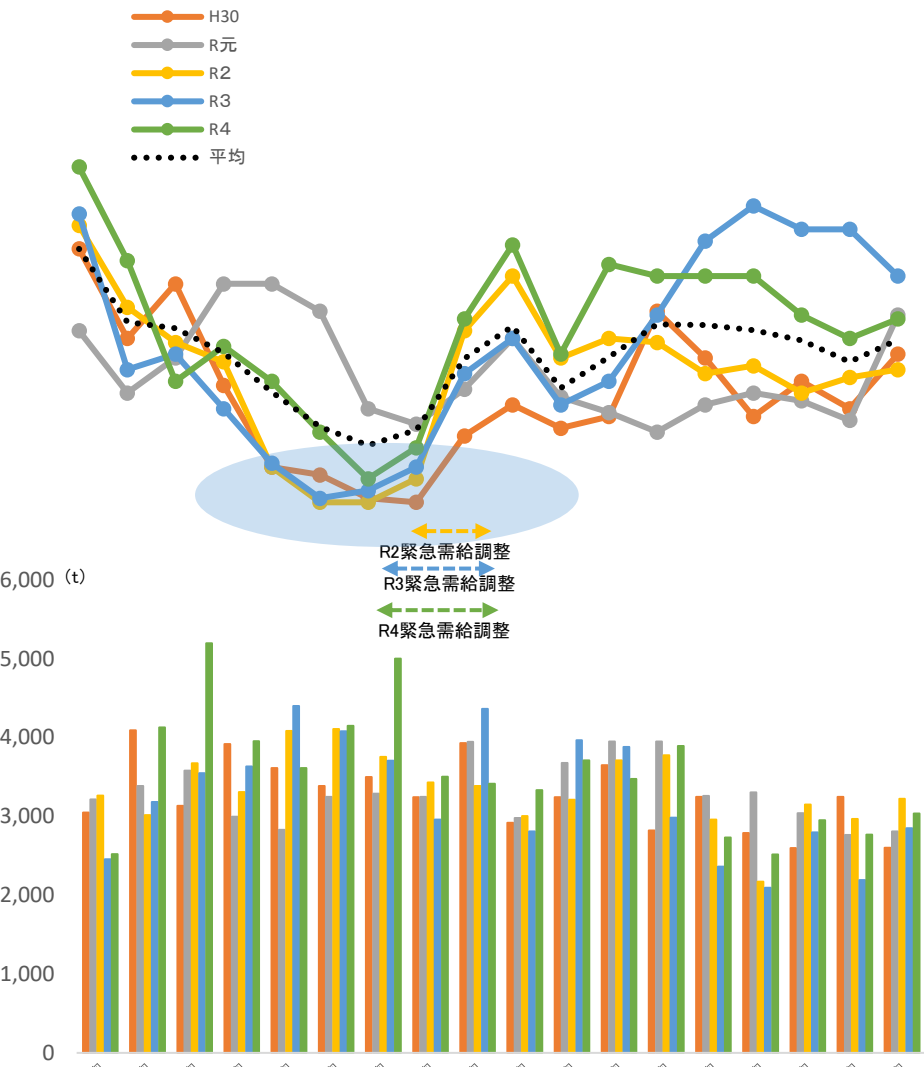
4. 輸入先国の内訳



秋冬だいこんの生産・価格等動向②

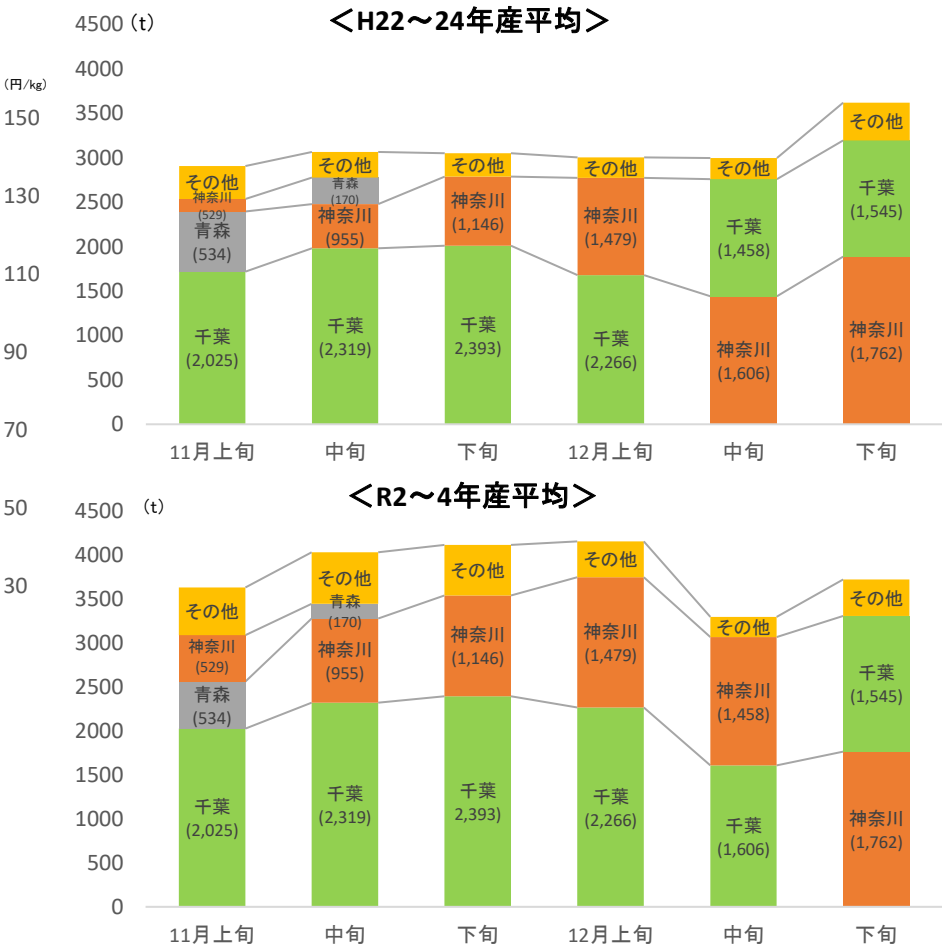
- 出荷量が増加する12月にかけて価格が低落する傾向にあり、令和2年～4年の3年連続で緊急需給調整事業を発動。令和3年(令和4年2月・3月)は主産県における低温の影響で出荷量が減少し、一時的に価格が上昇。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産業振興機構「ペジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～12月下旬)

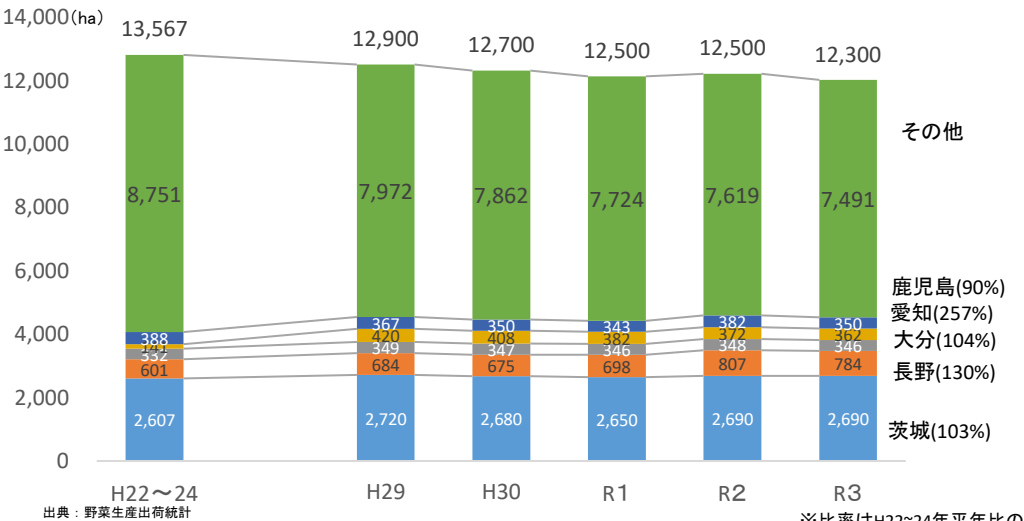


	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	18,639	22,940	123%
千葉	10,016	12,155	121%
神奈川	5,839	7,328	125%
青森	1,026	728	71%

秋冬はくさいの生産・価格等動向①

- 茨城、長野で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は減少しているものの、全体出荷量は微増。主産県では、茨城の作付面積・出荷量は微増で、長野は作付面積・出荷量ともに大きく増加している。
- はくさい(生鮮)の輸入量は極少量であり、国内供給のほぼ100%が国産品となっている。

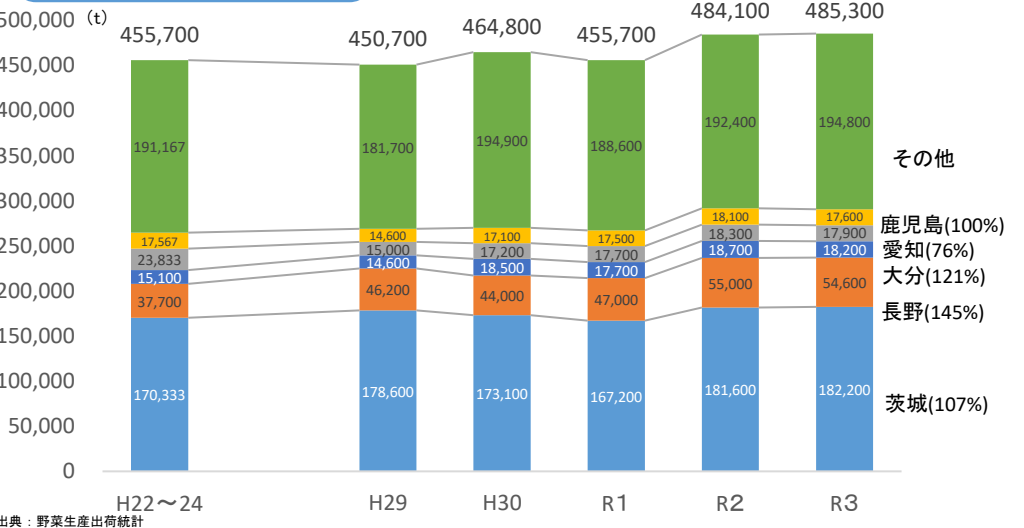
1. 作付面積の推移



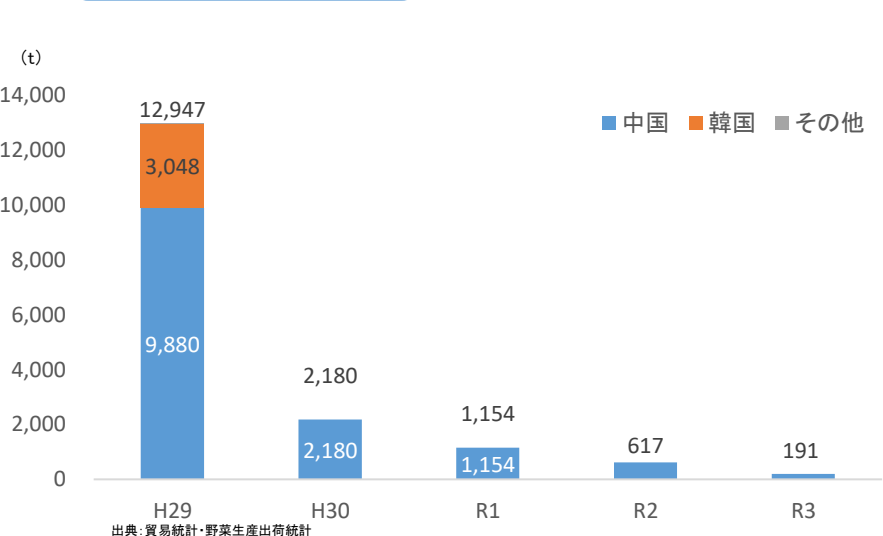
3. 出荷量と輸入量



2. 出荷量の推移



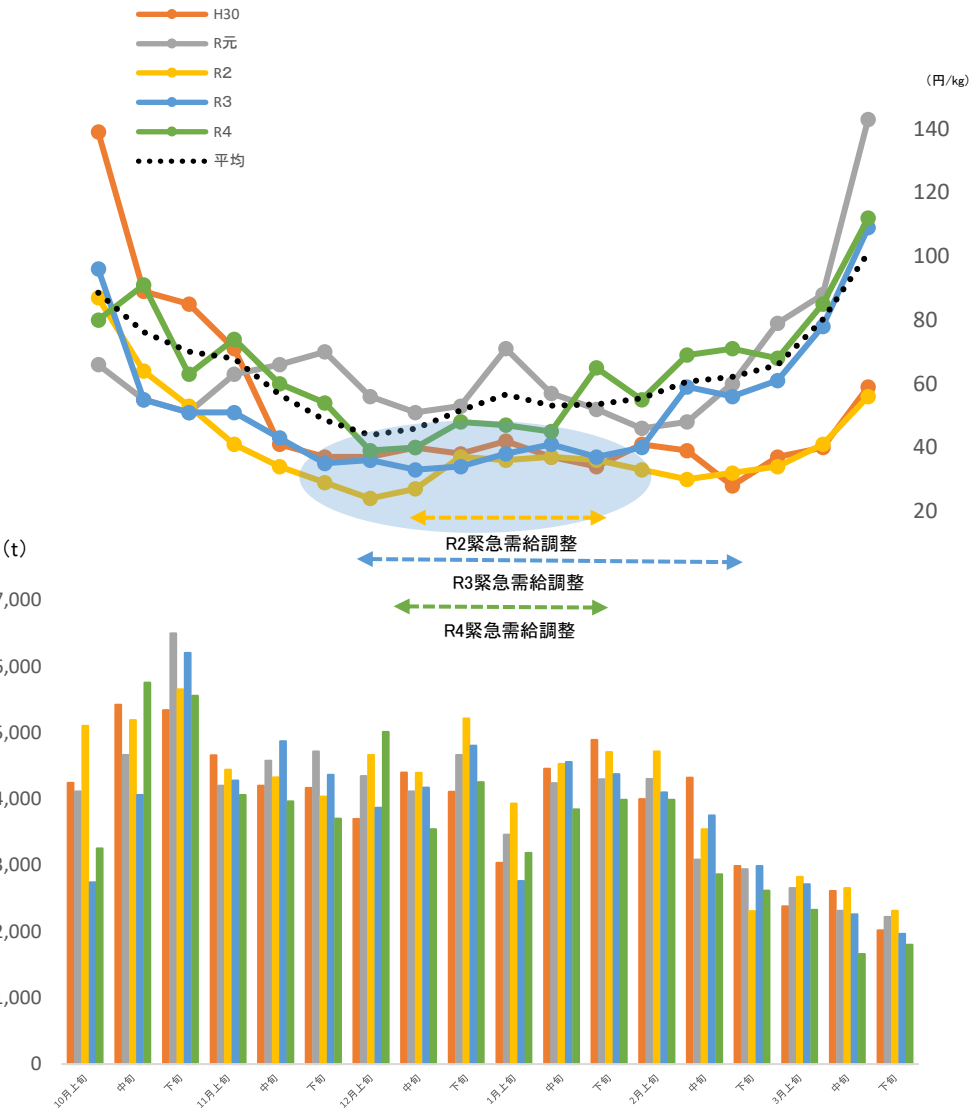
4. 輸入先国の内訳



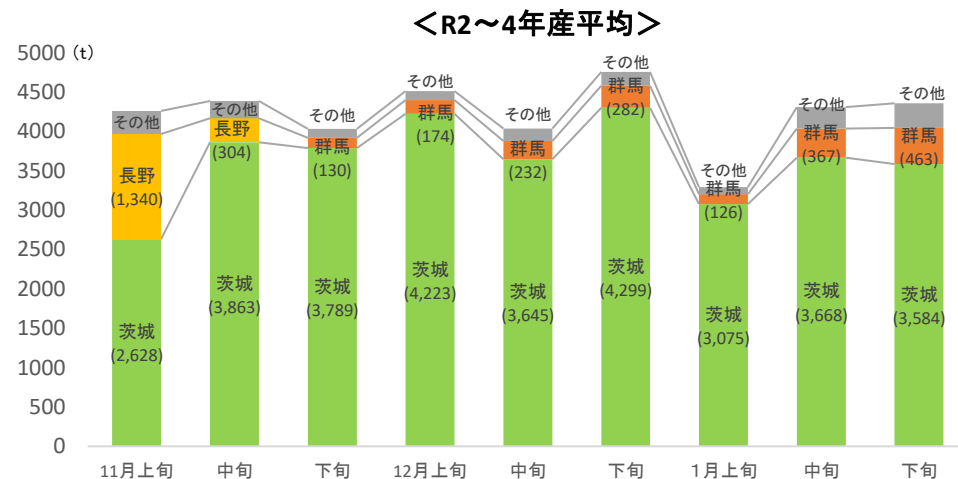
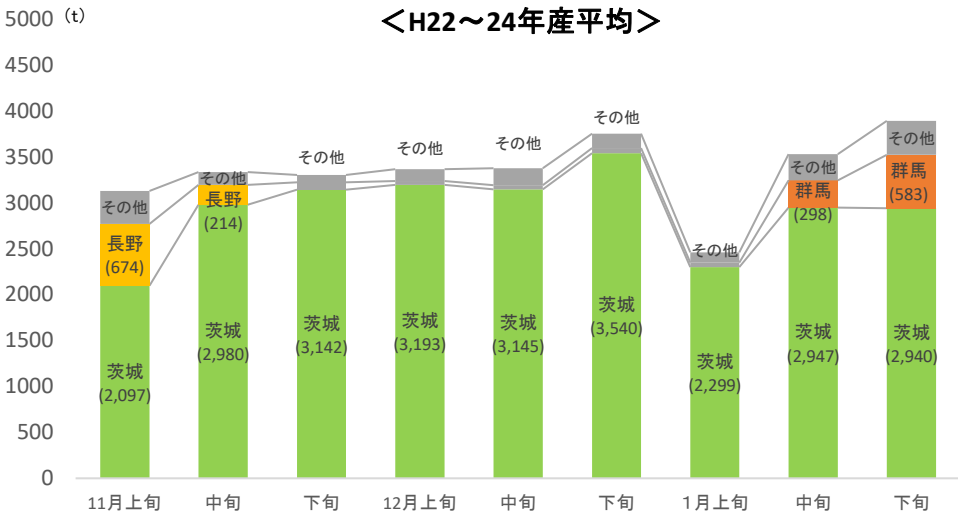
秋冬はくさいの生産・価格等動向②

- 平成29年は長雨・台風・低温等の影響により出荷量が減少し、価格が高騰したが、全般的には、夏はくさいの残量と秋冬はくさいの出始めの重なりによって10月の出荷量が増加し、安値となるほか、近年は暖冬等の影響によって出荷期間を通じて価格低落が続く傾向にあり、令和2年～4年は緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～1月下旬)



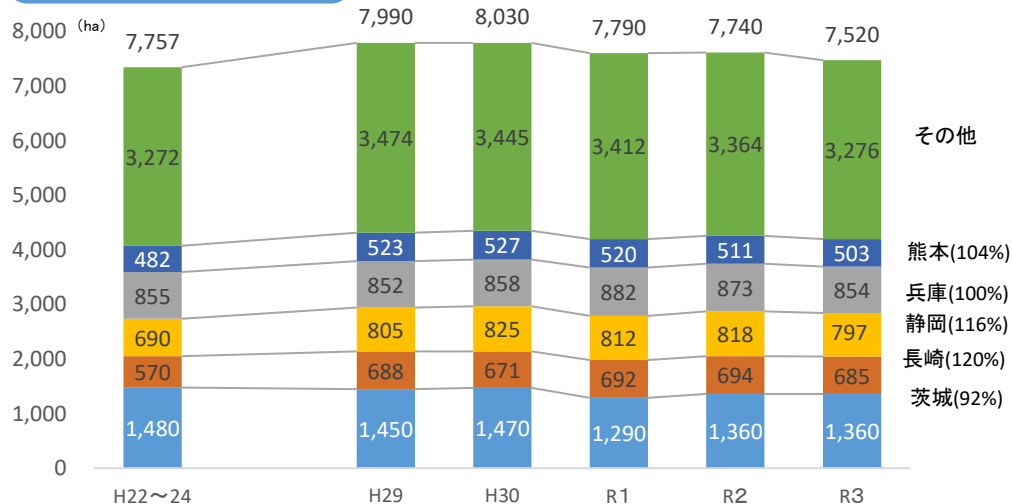
	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	33,755	37,939	112%
茨城	2,292	1,706	74%
群馬	1,421	2,153	152%

出典：(独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

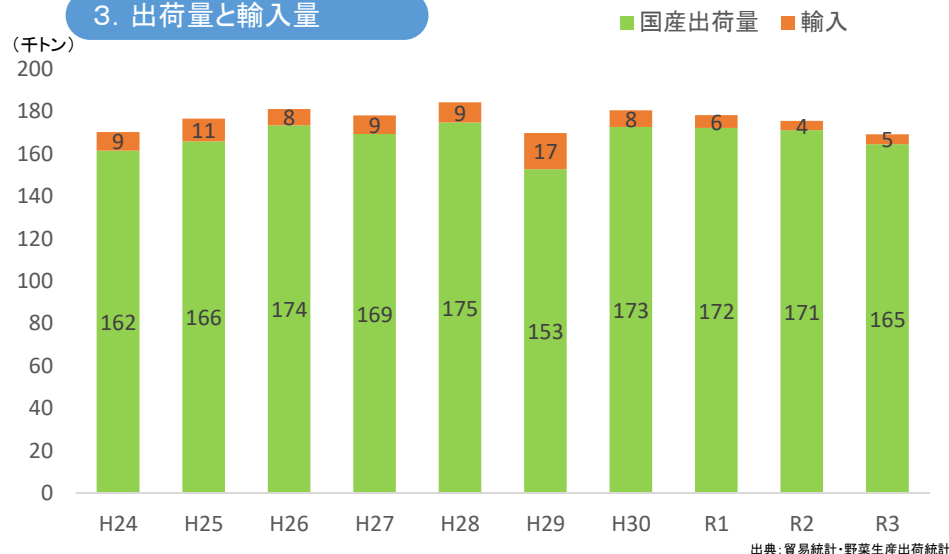
冬レタスの生産・価格等動向①

- 茨城、長崎、静岡、兵庫、熊本で全体出荷量の約6割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は横ばい、全体出荷量は微増。主産県では、茨城の作付面積・出荷量が減少する一方、静岡・長崎は大幅に増加。
- 国内生産量に比べると極少量ではあるが、加工・業務用に主に台湾から結球レタス、米国から非結球レタス（ロメインレタス等）が輸入されている。

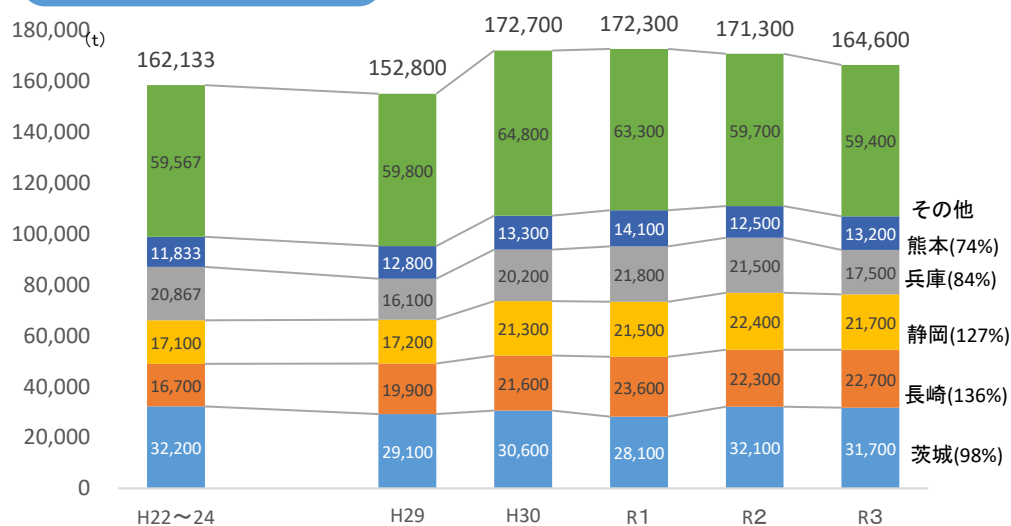
1. 作付面積の推移



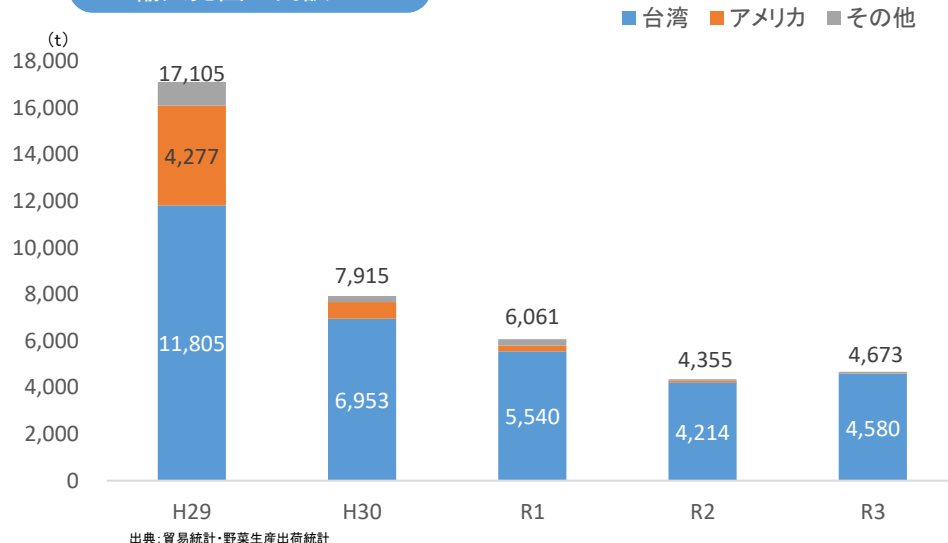
3. 出荷量と輸入量



2. 出荷量の推移



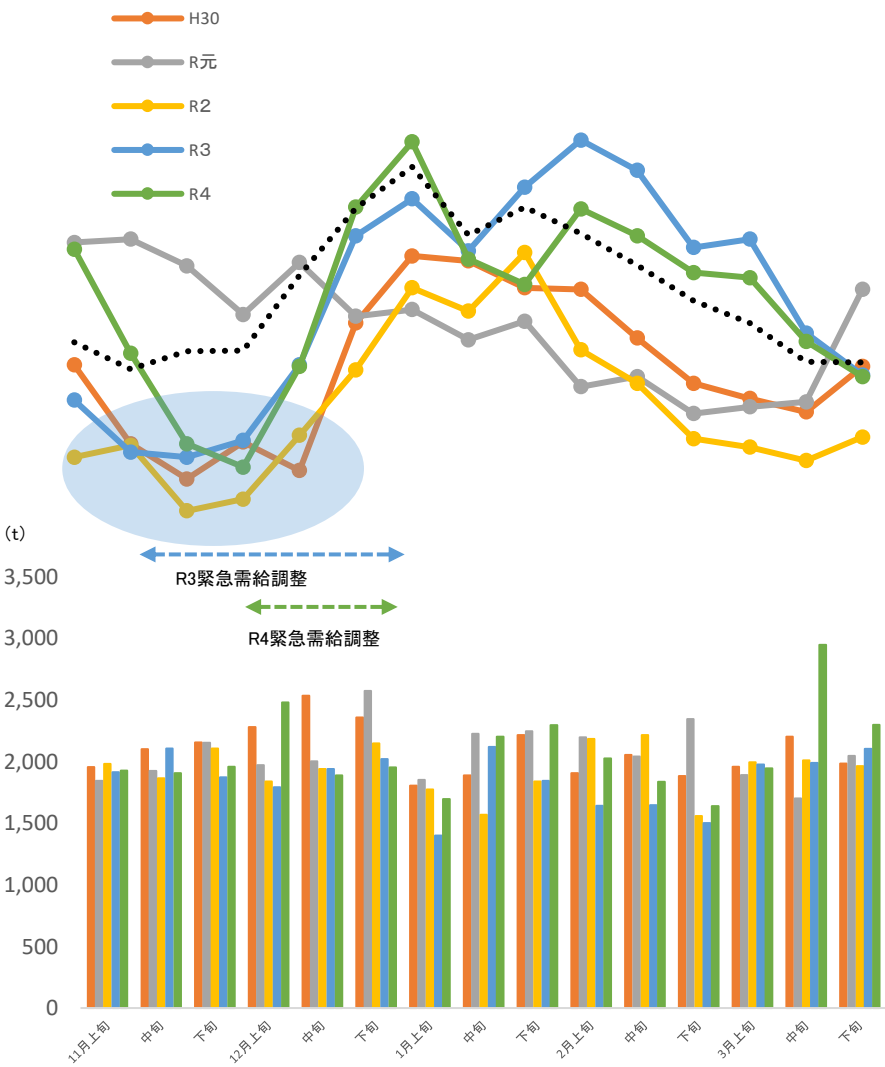
4. 輸入先国の内訳



冬レタスの生産・価格等動向②

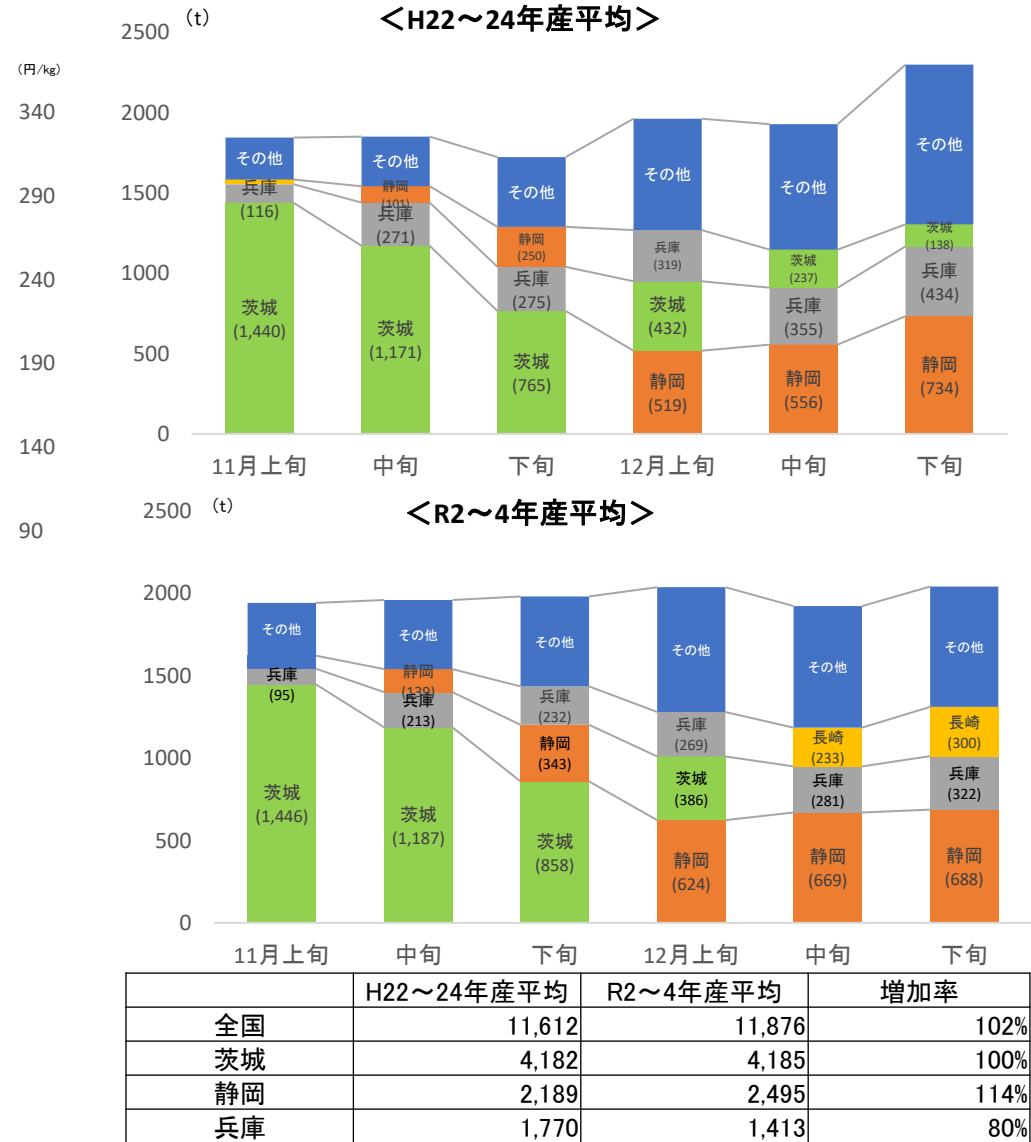
- 平成29年は長雨・台風・低温等の影響により出荷量が減少し、11月から2月にかけて価格が高騰したが、近年は暖冬等の影響によって出荷期間を通じて出荷量が増加し、安値が続く傾向。令和2年～3年の2年連続で緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

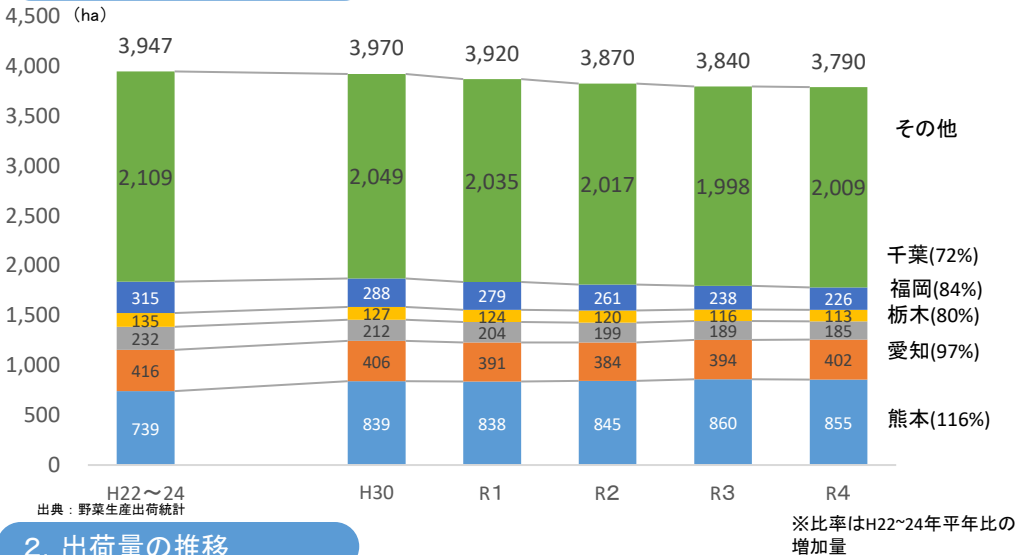
6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(11月上旬～12月下旬)



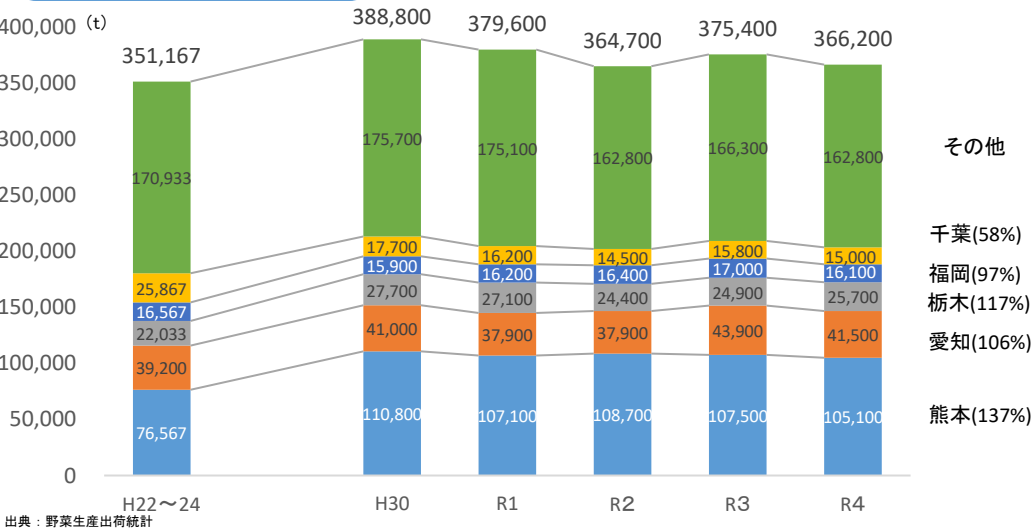
冬春トマトの生産・価格等動向①

- 熊本、愛知、栃木で全体出荷量の約5割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は微減したものの、全体出荷量は増加。主産県では、愛知、千葉が作付面積を減らす一方、熊本は大幅に増加。出荷量も熊本が大幅に増加している。
- 生鮮トマトの輸入量は1万トン以下と極少量。輸入量の5割程度は韓国産。

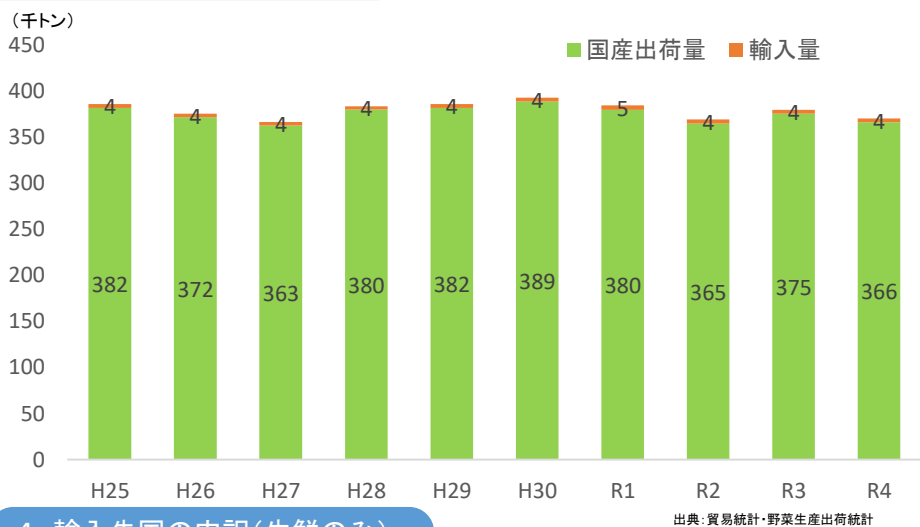
1. 作付面積の推移



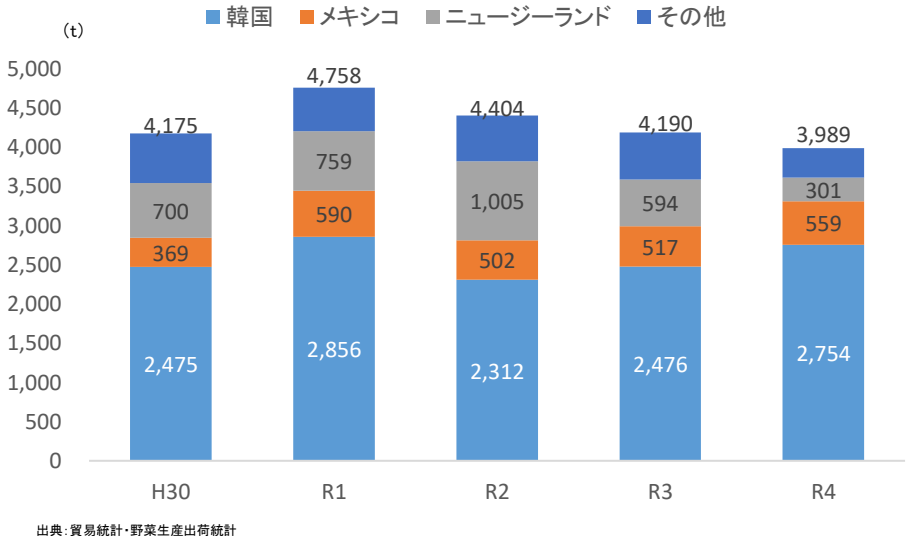
2. 出荷量の推移



3. 出荷量と輸入量(生鮮のみ)



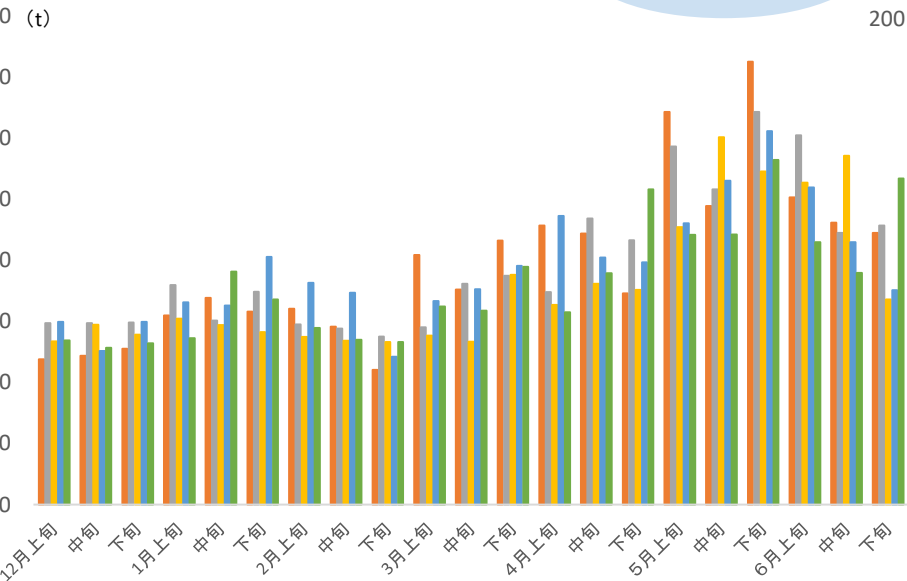
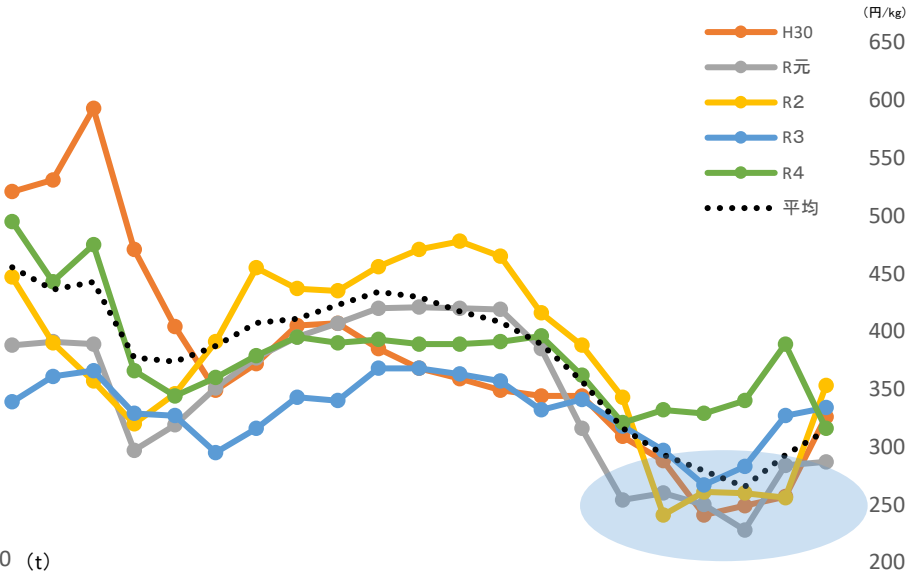
4. 輸入先国の内訳(生鮮のみ)



冬春トマトの生産・価格等動向②

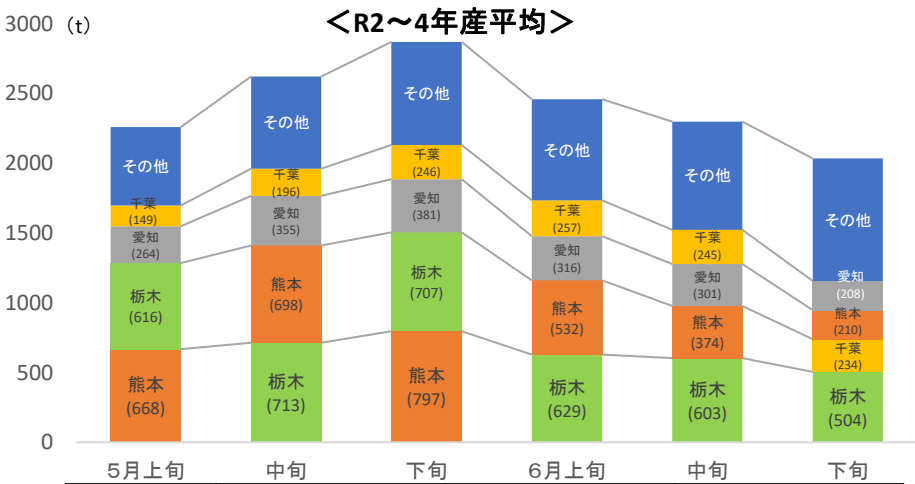
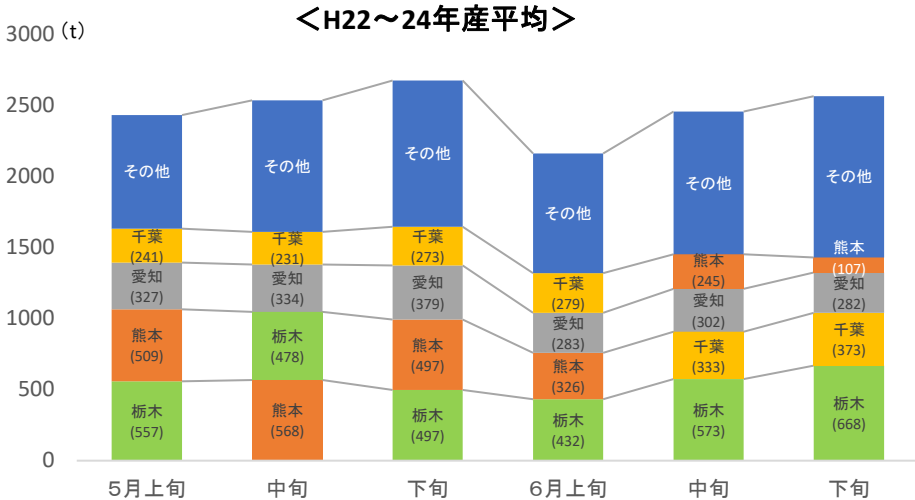
- 例年、出荷量の増加する5月から6月に価格が低落する傾向が見られる。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(5月上旬～6月下旬)

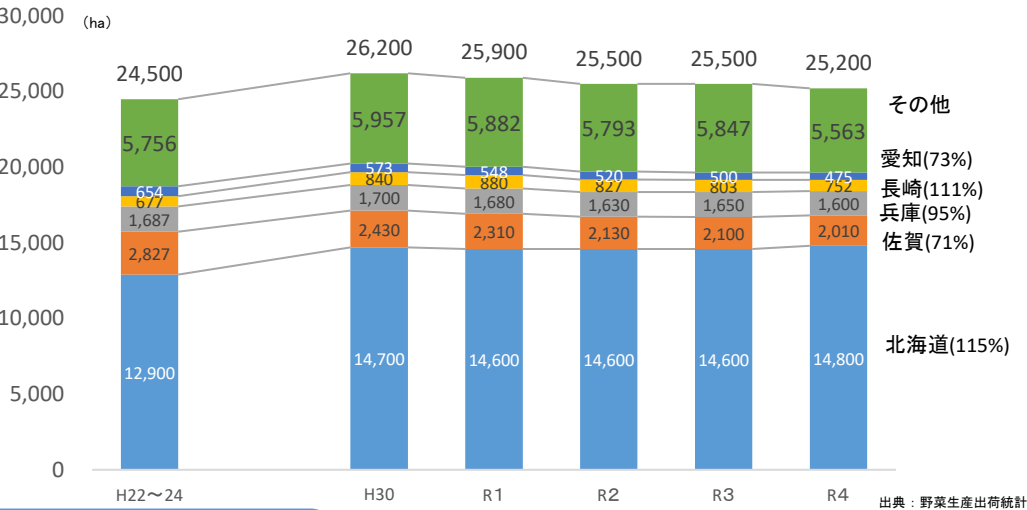


	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	14,829	14,540	98%
熊本	2,251	3,280	146%
栃木	3,224	3,773	117%
愛知	1,918	1,824	95%

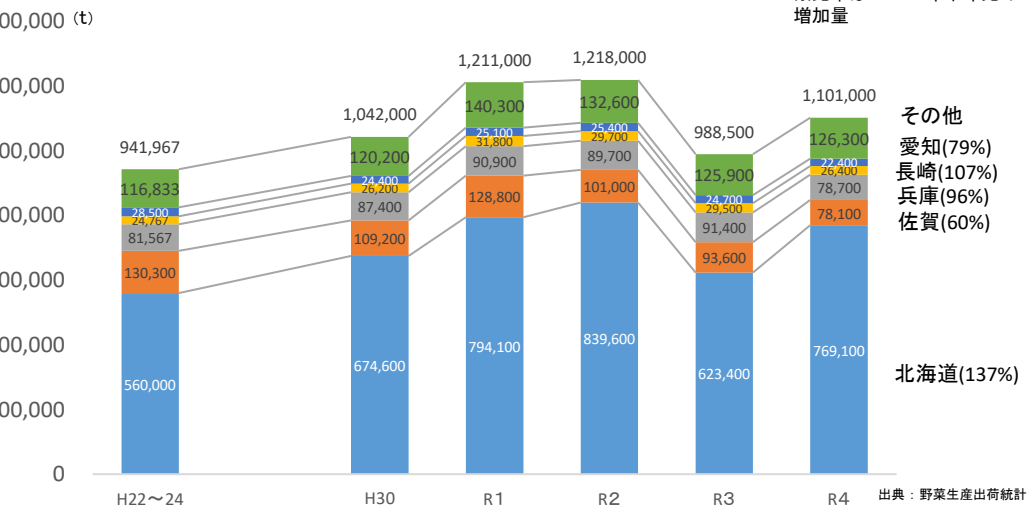
たまねぎの生産・価格等動向①

- 北海道、佐賀、兵庫で全体出荷量の約8割を占める。10年前と比較し、全体作付面積は増加し、全体出荷量は大幅に増加。主産県では、北海道の作付面積・出荷量がともに大幅に増加した一方、佐賀は作付面積・出荷量ともに大幅に減少。
- 生鮮たまねぎの輸入量は年25〜30万トン程度で安定的に推移しており、その約95%が中国からの輸入。乾燥たまねぎは10万トン前後で推移しており、主にアメリカ、エジプト、中国からの輸入。

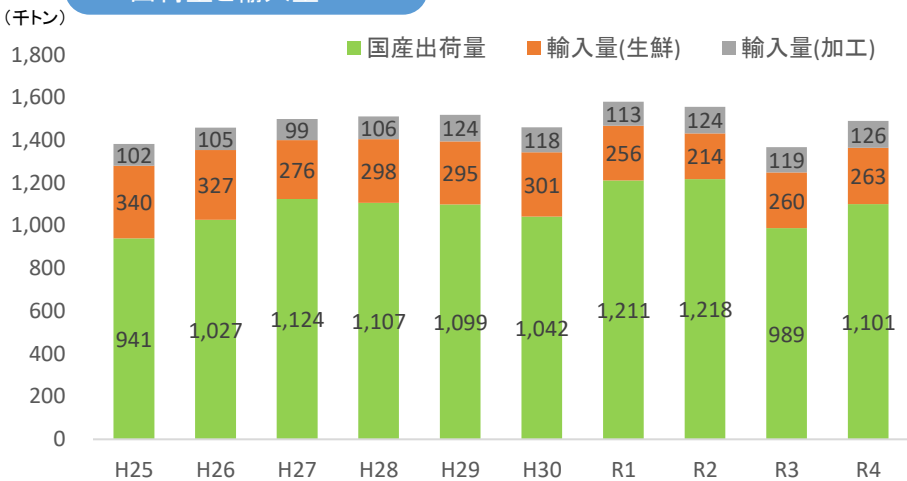
1. 作付面積の推移



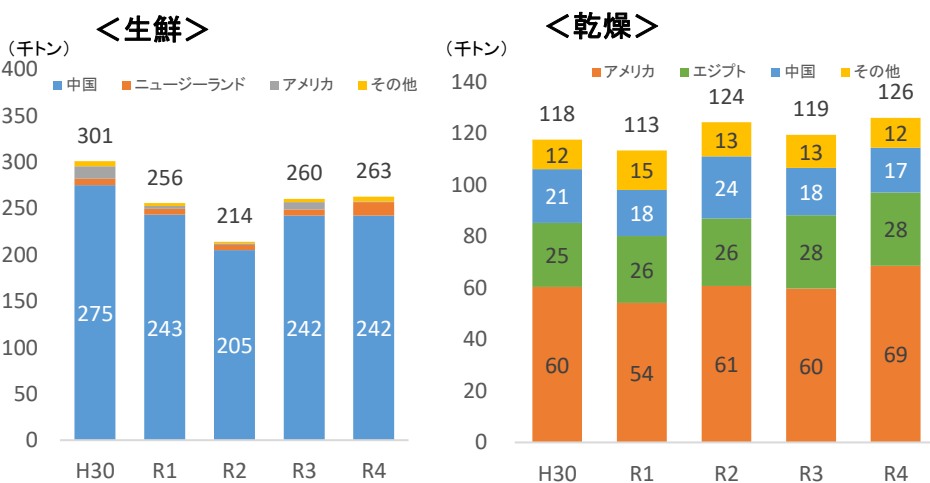
2. 出荷量の推移



3. 出荷量と輸入量



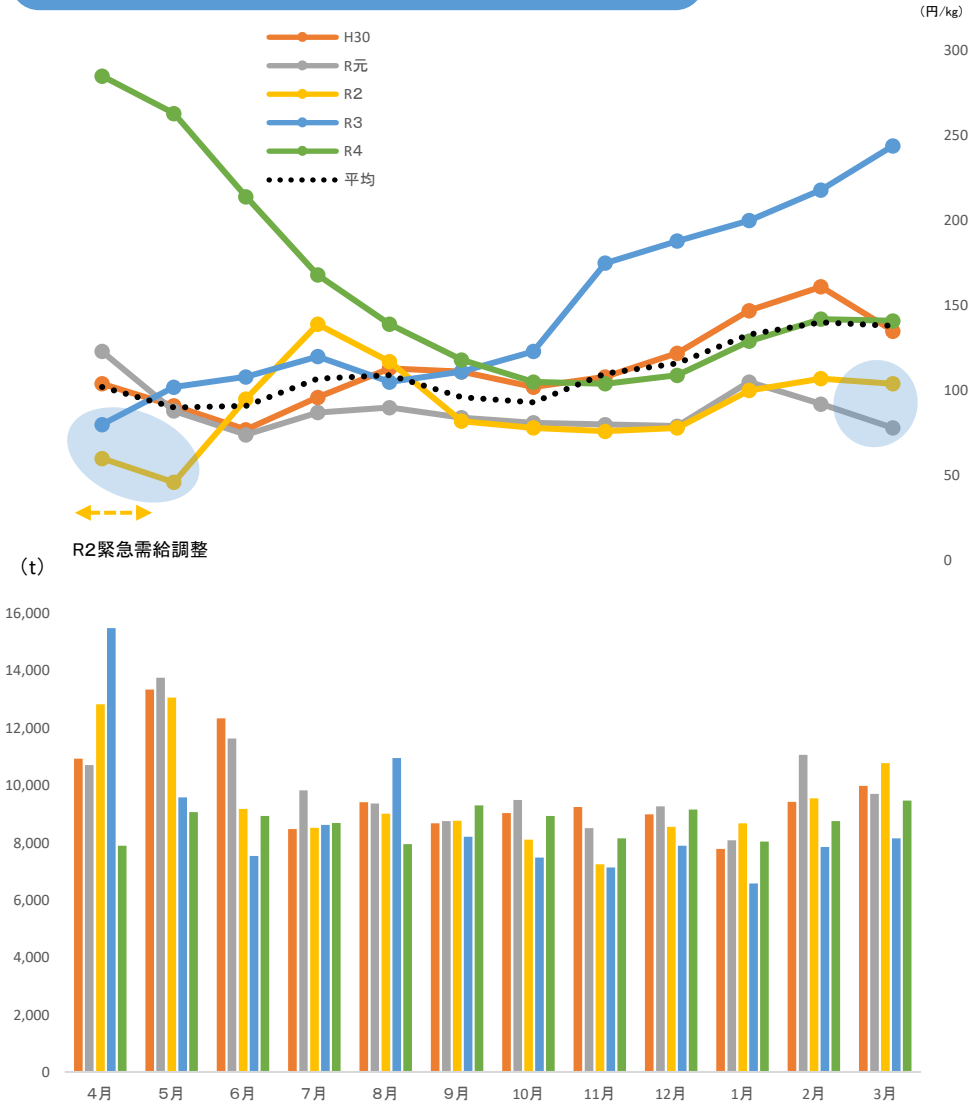
4. 輸入先国の内訳



たまねぎの生産・価格等動向②

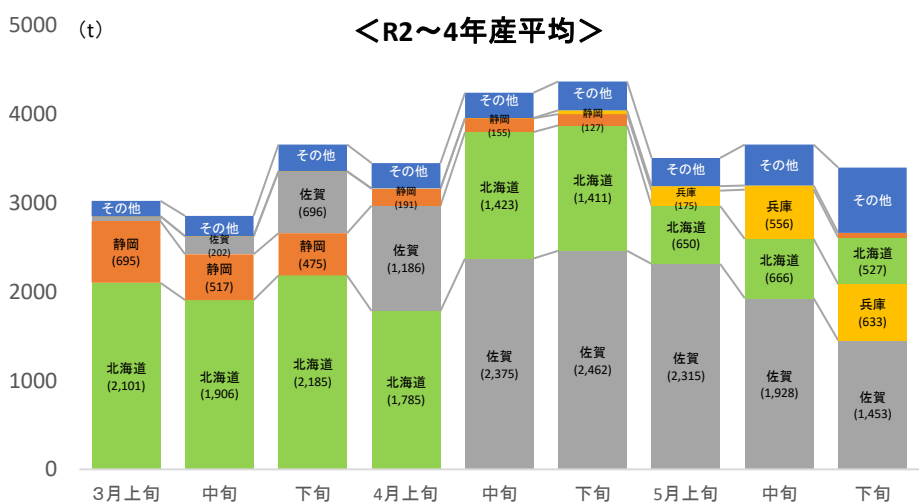
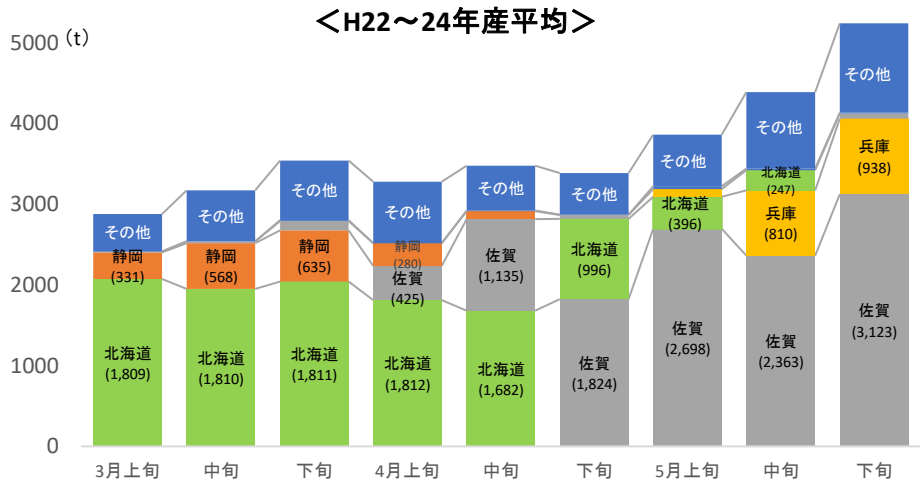
- 令和3年10月以降、令和4年にかけては、令和3年夏の高温・干ばつによる北海道産の不作により顕著な高値で推移。一方、北海道産、佐賀産等が豊作だった令和2年は春先に大幅な価格低落が発生し、緊急需給調整事業を発動。

5. 東京中央卸売市場における価格と出荷量の推移



出典：(独)農畜産業振興機構「ベジ探」旬別価格・出荷量(東京都中央卸売市場)を基に作成

6. 東京中央卸売市場における出荷量の変遷(3月上旬～5月下旬)



	H22～24年産平均	R2～4年産平均	増加率
全国	42,953	40,702	95%
北海道	11,301	12,871	114%
佐賀	16,435	15,977	97%
兵庫	3,388	3,833	113%